

留学先大学：Vytautas Magnus University

氏名：金子 のの子

Labas Rytas! (おはようございます)。6月-Birželis-です。前半に Development Politics の期末テストと PBL 課題探求プロジェクトのレポートがあり、それを終わらせると約3か月間の長い夏休みが始まります。今月と来月の報告書では、PBL の一環としてインターンしているカウナスの杉原千畝記念館(Sugihara House)について紹介したいと思います。それでは、6月の報告書ははじめます！

【漫画で知る】



私が杉原千畝を知ったのは、小学生の頃だったと思います。世界の偉人たちの物語が漫画で描かれている小学館のシリーズを読むのが好きで、その中に杉原千畝の物語がありました。小学生の私はその人が何をしたかということよりも、まんがの中で描かれていた彼の顔が印象的で絵としての記憶が残っていました。(杉原千畝—六千人の命を救った外交官 小学館版学習まんが人物館)

留学先をリトアニアに決めたのは、杉原千畝記念館でインターンしながら大学で勉強できるからというのが大きな理由です。杉原千畝と福井の敦賀とのつながりをあとで知ったときは、福井大学に入学したことからすべて何か繋がっている気がして、リトアニアという選択は間違っていないと後押しされたような気持ちでした。

【杉原千畝について】

どれくらいの日本人が彼のことを知っているでしょうか。杉原さんの妻・幸子さんによる書籍(六千人の命のビザ)や2005年のドラマ(主演：反町隆史)、2015年に公開された映画(主演：唐沢寿明)を通して、初めて杉原千畝さんを知ったという人もいます。

杉原千畝は、1939年カウナスの日本領事館に領事代理として赴任し、第二次世界大戦中のリトアニアで、ナチスの迫害に流れてきたユダヤ人に対して日本通過ビザを発給し、多くの命を救った日本人外交官です。

彼のことが日本で知られるようになったのは、イスラエル政府が彼の功績をたたえて勲章を授け、“諸国民の中の正義の人”として表彰されたことがきっかけであり、彼がビザを発給してからおよそ40年後の出来事でした。なぜ、こんなにも後になって彼の存在が日本人に知られるようになったのかは、いくつか理由があります。まず、ビザ発給に関することを、彼自身多く語らなかつ



たことにあります。そして、ビザ発給の件で外務省が杉原さんの行ったことを長く認めなかったことです(ユダヤ人にビザ発給する際、外務省が出した条件に背く形になってしまったため)。彼が亡くなった後の2000年に当時の河野洋平外務大臣が遺族に謝罪し、ようやく彼の功績を認めます。

【カウナスの杉原千畝記念館】

記念館は、小高くなった土地にあり、周りは住宅で囲まれています。ツアーだとバスが記念館前に横付けしてそのまますぐ入口に行けるのですが、個人で訪れる方は、道がわかりづらいようで迷われる方が多いです。でも安心してください！そんな時は現地のリトアニア人が必ず助けてくれます。周りに住んでいる人も記念館のことを知っているのです、キョロキョロしている日本人を見つけたら、「ここに行くんでしょ？」と記念館まで案内してくれます。そのままついて行きましょう。

杉原ハウスは、当時の日本領事館の建物をそのまま利用しています。1階は実際に使っていた執務室や杉原さんや家族について、外務省とのやりとりの記録などの展示があります。

2階は、1940年代のリトアニア、ヴィリニユスやカウナスの状況について、ビザ申請の書類などがパネルで展示されています。



◆次回は、インターンの内容と記念館で出会った人々についてお伝えします。